

VI

クロージングイベントの概要

開催日 平成24年11月18日(日) 14:15~15:45

会場 岩手大学復興祈念銀河ホール (岩手県盛岡市)

趣旨・概要

「全国生涯学習ネットワークフォーラム2012」の総括として、4つの分科会での実施内容を集約するとともに、来年度予定している岩手大会に向けて、その成果を引き継ぐための協議を行った。

クロージングイベント内容

(1) 各分科会代表による報告

各分科会企画実施委員会の座長及び学生等から、4つの分科会での実施内容について報告があった。





(2) パネルディスカッション

■コーディネーター

上月 正博 氏 (文部科学省大臣官房審議官 (生涯学習政策局担当))



■パネリスト

大宮 登 氏 (実行委員会座長 / 高崎経済大学副学長)

(主な内容)

- ICT分科会では、第2期教育振興基本計画 (中間報告) で示されている「自立、協働、創造」という3つの達成目標がICTを活用することによって効果的に促進される可能性があることが示された。
- 福島分科会では、若者たちが、震災の現場で多くの人と協力しながら、現実的な課題に向き合って活動することが、質の高い学びをもたらすことを再確認し、学びの在り方の変革を示唆した。
- 「学びを通じた絆づくり」という意味では、今回のフォーラムは大成功ではなかったか。学びのイノベーションの方向性が随所で示された。しかしながら、「活力あるコミュニティ」の形成については、継続・持続していく課題が残った。



貝ノ瀬 滋 氏 (実行委員会副座長 / 三鷹市教育委員会教育委員長)

(主な内容)

- 宮城分科会の学生ボランティア報告会では、ボランティア活動というのは学生の人的成長を促す活動であり、その意義を教育の場で展開していくべきだと感じた。
- 岩手分科会の熟議では、「女性の起業」という熟議グループがあったことは画期的なこと。復興を考えたとき、起業というのは視野に入っても良いのではないかと感じた。
- 様々な思い・考えを仕組みとして具体化していくことが重要。どういふ人たちとつながって、どんな組織を作るのか。具体化のプランを一步踏み出していくことが求められる。



菅野 洋樹 氏 (岩手県教育委員会教育長)

(主な内容)

- 大学の力というのは素晴らしいものだと再認識した。知の拠点としての役割はもちろんだが、それと同時に若人の拠点である。これだけの、若人のマンパワーを持っている組織は県内にはあまりない。
- 自ら考え行動できる人間に育てるために、熟議の手法を普通の授業の中に取り入れられないだろうか。中学生の力をしっかり伸ばしていくことが、岩手の復興の起爆剤になる。

